

項目	入力欄
科目名	専門演習
教員名	西田奈保子
授業概要とねらい	<p>1. テーマ【前期・後期共通テーマ】 復興行政の課題を探る・まちづくり・地域づくりの観点から -</p> <p>2. 授業概要とねらい</p> <p>行政学は、行政そのものや行政組織による意思決定が関係して起こる現象を守備範囲に、「影響力の非対称」という観点（例えば、中央・地方関係や行政-地域社会関係など。）から人間の相互行為に関心をもち、よりよい社会を模索する、政治学の一分野である。</p> <p>人口減少や地方分権といった社会・行政環境の中で発生した東日本大震災と原発事故は、災害からの復興プロセスの課題を私たちに提示している。非常時と平時をつなぐ復興まちづくりに焦点を併せつつ、民主主義とともにある行政と地域社会がいかにあるべきか、実証的に考察を深めていくことにしたい。ゼミ全体でのねらいは、現実社会への共感力と分析力を政策的思考に結びつけ、その思考を表現できる力を身につけること、と設定する。</p>
望ましい水準	<p>主体的・積極的に参加して、個人の成長とグループワークで役割を果たすという両面をめざす。具体的な到達目標は次の6項目とする。行政学の主要な基礎概念の習得、既存研究を整理し、論点を把握できる、実態を把握するための社会調査ができる、グループワーク、レジュメ報告、質疑等に主体的に参加し、議論の促進に貢献できる、論理的に分析し、適切に文章表現できる、成果を所定の形式にまとめ、議論を展開できる</p>
授業計画	<p>行政活動を枠づけている制度面を理解するだけでなく、制度の運用実態を捉えていくことを重視する。現状把握の力と政策的思考を鍛えたい学生とともに学びたい。</p> <p>大枠としては、3年生はグループワークを基本とする行政学的調査研究、3・4年生全体ではグループワークを基本とする調査研究（復興まちづくり）の2つから構成する。併せて、4年生は卒業研究を仕上げていく。</p> <p>このゼミでは、継続的に、福島県内の津波被災地区における小さなまちづくりに関わらせていただいている。また、他大学の行政学系ゼミと合同ゼミを行う予定がある。調査研究のテーマによっては県外の事例を調査に行く場合がある。</p> <p>2018年度の計画は次のとおり。詳細は年度当初にメンバーと相談して決める。</p> <p>○前期～夏期</p> <p>【導入】文献精読、政策過程事例演習（グループワーク）</p> <p>【フィールドワーク】調査目的、調査手法、調査対象、現状把握、分析、考察（グループワーク）復興まちづくりの手伝いをする場合がある</p> <p>【研究計画とその実行】</p> <p>3年生：3年生論文（グループ）の研究計画書の作成、先行研究の整理</p> <p>4年生：卒業研究（個人）の研究計画書の作成、先行研究の整理、聞き取り調査等</p> <p>○後期（他大学との合同ゼミを行う予定がある。）</p> <p>【フィールドワークのとりまとめ】必要に応じてフィールドに出て、復興まちづくりの手伝いや調査研究の成果を地域等に還元する。</p> <p>【各研究のとりまとめ】3年生論文、卒業研究の進捗報告を繰り返ししながら、論文を完成させる。合同ゼミでは3年生論文を報告し議論する予定。</p>
教材・教科書	メンバーの関心を踏まえて決める。また、調査研究のプロセスの中で、アドバイスはするが自ら見つけて読み込むことが大切。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小原隆治・稲継裕昭編（2015）『震災後の自治体ガバナンス』東洋経済新報社</li> <li>・伊藤正次・出雲明子・手塚洋輔（2016）『はじめての行政学』有斐閣</li> <li>・秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉（2015）『公共政策学の基礎 新版』有斐閣</li> <li>・真淵勝（2009）『行政学』有斐閣</li> <li>・村上弘・佐藤満（2016）『よくわかる行政学 第2版』ミネルヴァ書房</li> </ul>
参考URL	自治体、政府統計、中央省庁のウェブサイト
授業以外の学習	<p>日頃から、新聞記事、関連図書・雑誌等に目を通し、幅広い関心を持ってください。閉じた意識で政策や行政活動を考えることは不可能です。</p> <p>ゼミの時間以外に、予習復習、報告の準備、グループワークのための打ち合わせ等の学習時間が必要です。</p> <p>フィールドワークは、ゼミ時間以外の実施になります。時間づくりに協力する姿勢が必要です。</p> <p>行政学・を履修すること。次の関連分野を履修することが望ましい。政治学、地方行政論、公共政策論、地方自治法、社会学（調査法含む）、財政学、都市計画。</p>
成績評価の方法	出席、報告や質問の分担、提出物作成を前提に、上記の望ましい水準に基づいて評価します。ゼミ形式のため積極的な参加を求めます。ゼミが楽しみになるように全員でしていきましょう。なお、出席が3分の1を下回る場合は不可とし、無断欠席及び正当な理由が示せない欠席には厳しく対処します。
成績評価の基準	望ましい水準及び成績評価の方法に照らし、以下の基準で評価します。 A：すべての項目で高い水準に達している B：いずれかの項目で高い水準に達している C：すべての項目で水準に達している D：いずれか1項目でも水準に達していない F：2項目以上で水準に水準に達していない（不合格）
オフィスアワー	質問等がある時には随時受け付けます（事前に直接またはメール等で日程調整すると確実。）
留意点・注意事項	グループワーク等で必要になるため、パソコン・インターネット環境を整えてください。
その他	
ディプロマポリシー大区分1	地域と行政専攻のディプロマポリシー
ディプロマポリシー小区分1	応用能力（地域と行政専攻）
ディプロマポリシー大区分2	地域と行政専攻のディプロマポリシー
ディプロマポリシー小区分2	表現力とコミュニケーション能力（地域と行政専攻）
ディプロマポリシー大区分3	
ディプロマポリシー小区分3	
ディプロマポリシー大区分4	
ディプロマポリシー小区分4	
ディプロマポリシー大区分5	
ディプロマポリシー小区分5	
ディプロマポリシー大区分6	
ディプロマポリシー小区分6	
ディプロマポリシー大区分7	
ディプロマポリシー小区分7	
ディプロマポリシー大区分8	
ディプロマポリシー小区分8	
ディプロマポリシー大区分9	
ディプロマポリシー小区分9	
ディプロマポリシー大区分10	
ディプロマポリシー小区分10	
ディプロマポリシーその他	